

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200554		
法人名	社会福祉法人 愛隣会		
事業所名	グループホーム はさみ里		
所在地	長崎県東彼杵郡波佐見町稗木場798番地1		
自己評価作成日	令和元 年11 月29 日	評価結果市町村受理日	令和2年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和2年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が安全に安心して穏やかな生活が送られますように、5つの理念、「家庭的な生活に近づけるように支援します」、「市民生活を継続します」、「楽しい雰囲気を作ります」、「人としての尊厳を重視します」、「自立と協調を支援します」を念頭に置き、機能訓練を兼ねたレクリエーション、生活リハビリ、外出支援、家族や知人との交流の継続に力を入れている。地域の行事として、介護福祉フェスタや介護の仕事基礎講座に協力事業所として参加、災害時の避難訓練に参加する等、地域との交流を深めている。また、選ばれる施設を目指して、接遇心得11ヶ条を作成し、日々の関わりの中で実践している。結果、入居者と職員共に仲が良く、「良かけん、ここに居ると」との言葉が聞かれ、笑いの絶えない事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは同法人が運営する特別養護老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅のほかに協力医療機関である波佐見病院に隣接しており、入居者が安心して生活できる環境が整っている。法人内には各種委員会が設置されており委員会活動を通じた職員研修の機会も多く、職員それぞれが知識の研鑽に努めることで日々の入居者支援に活かしている。地域の災害訓練への参加や自治会役員との交流のほか、地区グループホーム連絡協議会や波佐見町社会福祉協議会主催の各種取り組みに参加したり毎年中学生の介護体験をホームで受け入れたりするなど、地域との交流を積極的に行っている。地域との交流を継続して取り組むことで地域住民からの信頼を得ることに繋がり、職員が近隣の商店へ出掛けした折には『はさみ里って良いところね』と言葉を掛けてもらうなど、地域の認知度も高く良い印象であることが窺える。勤続年数が長い職員も多く、職員間のコミュニケーションも円滑に行われており、職員同士が互いを尊重・信頼し合っていることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 りんご

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲げている。朝の申し送り時に読み上げ、その日の介護に実践できるように努めている。	ホームでは『家庭的な生活に近づける、市民生活の継続、楽しい雰囲気づくり、人としての尊厳を大切に、自立と協調の支援』を理念として掲げており、職員は毎年理念に沿った目標を設定している。年度末には管理者との面談にて支援内容を振り返るとともに、振り返りでの反省をもとに次年度に向けた目標を設定し、実践へと繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加したり、近隣の方に消防訓練に参加して頂いている。また、年に1回の粽作りには近隣の方にも参加して頂いたり、日頃、お世話になっている方に配るなど交流している。	地域の情報についてホーム近隣に居住する職員や町役場より収集し各種行事に参加するほか、毎年地区の中学生による体験学習や各種ボランティアの受け入れを行っている。また、管理者がグループホーム連絡協議会が主催する看取りについての講話を行うなど、地域と積極的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会主催による介護福祉フェスタや介護の仕事基礎講座に協力事業所として参加したり、中学生の職場体験学習の受け入れを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を開催し会議だけではなく、外食会、消防訓練、レクリエーション等に参加して頂き、当事業所の活動の理解や意見交換を行い、サービスに活かしている。	前回外部評価調査時に『次のステップに向けて期待したい内容』として挙げた、運営推進会議メンバーの区分(家族代表、民生委員など)の明記やヒヤリハット及び事故の報告について実現できており、会議欠席者や全家族への議事録配布も行っている。また、ホーム消防避難訓練に運営推進会議メンバーが参加するなど、活発な取り組みが窺える。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の入所・退所状況や事故発生時は事故報告書を提出している。また、運営推進会議に参加して頂いている。	入居者の入退所や要介護認定更新の際に町の窓口を訪問するほか、町と医療機関、福祉事業所との連携体制づくりを目的とした連携ノート作成にあたり管理者がメンバーとして参加するなど、良好な協力体制を構築している。また、行政担当者に運営推進会議へ参加してもらうことで、各種情報や運営に関する助言などを得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回の愛隣会による身体拘束廃止委員会に参加して、委員による言葉や環境面の拘束の抜き打ちチェックを行ったり、日頃から職員間で言葉の拘束に関して注意し合っている。	ホームでは毎月法人全体で身体拘束廃止委員会を開催しており、ホームからも委員である職員が参加している。委員会で話し合った内容は、職員会議等で身体拘束や虐待に関する研修ビデオなどを使用しながら組織全体での職員周知を図っている。また、拘束に該当するかどうか委員がチェックしたり職員で互いに注意し合ったりすることでケア内容の改善を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関して、テレビ報道や新聞の掲載を話題に職員間で意見交換を行い防止に努めている。また、日頃から虐待を疑うような皮下出血の観察を行っているが該当することはない。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新聞や研修などで学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は、契約書に沿って説明し、不安や疑問点を尋ね、相互理解に努めている。また、料金改定等の際は、その都度書面により説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の説明、玄関に意見箱の設置、面会時やケア会議時に直接意見を聞くなど運営の反映に努めている。	職員は外食会や敬老会、文化祭等の各種行事の機会に家族の思いを聴き取っている。聴き取った家族の思いは申し送りノートなどに記録し職員間で共有するとともに、日々の支援に活かしている。また、家族から思いを聴き取る際には聞き方を工夫したり要望などを伝えやすいよう配慮したりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	愛隣会においての各委員会への参加や職員会議、上司による個人面接にて意見や提案を述べたり、聞く機会があり反映させている。	管理者は職員の自主性を尊重し、職員から意見が出た際には『とりあえずしてみたら』と、まずは実践することを勧めている。ホームでは業務内容についての申し送りをユニット合同で行っており、そのことがスムーズな情報共有やユニット間・管理者・職員の良好な関係性へと繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課導入や給与締日等の変更について説明を十分に受けている。また、時間外勤務がないように努め、やむを得ない時は手当金を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験・力量に応じた個人目標を立て実践できるように配慮している。また、個人目標に沿って研修参加、資格取得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東彼セミナーやケアネットはさみなどの学習会・交流会に参加、また、グループホーム協議会にて看取り期のケアについて発表したり、同業者間の意見交換等、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心を確保するために、入所前に在宅訪問したり、入所時に不安や要望などを聞き、初期計画に取り入れ関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、申し込み時、入所時に不安や要望を聞き、初期計画に取り入れ関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は、契約書に沿って説明し、不安や疑問点を尋ね、相互理解に努めている。また、料金改定等の際は、その都度書面により説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや裁縫、買い物など生活リハビリを職員と会話しながら一緒に行い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケア会議や面会時に情報提供している。また面会時に居室でゆっくり過ごせるよう環境を整えたり、荷物が届いた時や電話希望時には電話の取次ぎを行う等、家族と共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷巡りや入院している連れ合いや施設入所している友人の面会の機会を設け関係が途切れないよう支援している。	職員は編み物が趣味である入居者とともに毛糸の購入に出掛けたり、孫の結婚式出席・家族の通夜への参列、友人との食事会などへの送迎を行ったりするなど、入居者の馴染みの関係を大切にしたい支援を行っている。また、入居者が以前住んでいた自宅やその周辺を巡る「ふるさと巡り」という支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う同士や共通の趣味(パズル)など相性に合わせて、席の配置し孤立せず楽しく過せるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のお見舞いに行ったり、家族から経過を聞くなど関係を大切にしている。また、退所された方の家族から七夕の笹や粽作りの竹の皮など頂き関係が継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の基礎情報による意向やケアプランによる意向、日々の関わりの中での意向を見逃さないようにして把握に努めている。	職員は個人記録・業務日誌・連絡ノートを使って入居者から聴き取った思いを共有しており、聴き取った事実をそのまま記録するよう心掛けている。各種記録類に関しても職員の主観や思い込みの記録とならないよう『学習係』を決めて勉強会を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らし方を家族やケアマネジャーから情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	受持ち制を取り入れ、日々の状態を記録し職員間で申し送りを行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	約3ヶ月毎に家族と職員にてケア会議を行い、情報を共有しケアプランに反映している。	ホームでは入居者の担当職員からの情報や入居者本人・家族の意向、医師の意見などを参考に、サービス担当者会議を経てケアプランの見直しを行っている。アセスメントやモニタリングは計画作成担当者が行っており、入居者本人の思いが反映できる目標へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って日々の介護を実践し、記録や申し送りにより情報共有しながらケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の食事会や親類の通夜、面会など希望に応じて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護福祉フェスタや案山子見物など地域の行事に参加したり、外食会ではレストランの協力を得て暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけ医の継続受診や外出困難な方は歯科の往診を受けるなど、家族や本人が希望する医療が受けられるよう支援している。	ホーム協力医への定期受診の際には看護師4名が同行しており、他科などの受診についても看護師が同行支援している。受診時は入居者それぞれの個人カルテや健康フローチャート(バイタルチェック表)を持参し、入居者の普段の様子を主治医へ伝えている。受診後には家族へ電話にて結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携がとれる体制があり、早期発見に努め、気がかりなことがあれば看護師に報告し受診支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを提供し、入院時は面会や医師からの情報収集を行い早期退院できるよう関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の変化ごとに家族との話し合いを設けて意向を確認している。それをふまえて医療職へ情報提供を行い共有と支援に努めている。	ホームでは入居時に看取り指針に基づく支援の方針について入居者本人及び家族へ説明しており、重度化とともに再度希望の確認を行っている。看取り時期には主治医から家族へ説明を行うほか、看取り支援に関するサービス担当者会議を家族・医師・職員で行い、看取りに向けた計画書を新たに作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日曜日の申し送り時や職員会議時に勉強会を行い急変や誤嚥などの対応について学んでいる。また、消防訓練時には心肺停止時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練と年4回定期自主検査を実施している。本年は愛隣会合同の消防訓練を行ったり、グループホーム所在地の地域災害訓練に参加し、関連施設や地域との協力体制を築いている。	ホームでは毎日コンセントの埃や施錠、火の始末等ホーム内の重点部分を巡回職員が点検するほか、それとは別に定期点検を年4回実施するなど防災に対する意識を高く持っている。また、地域の水害想定避難訓練に代表職員が参加し、情報収集・協力体制の構築にも努めている。避難訓練についても法人合同も含め定期的に実施している。	入居者全員分のカルテを緊急持ち出し用として管理していたため、有事の際に確実に持ち出すことが困難と思われる。例えば入居者の日頃の生活手段(独歩や杖使用など)が分かる写真などの情報や既往症・処方箋・かかりつけ医・緊急連絡先・保険情報等を一冊にまとめるなど、情報内容を簡略化したものを準備しておくことが望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇心得を元に優しい言葉かけや介護に努め、実践できているか自己評価を定期的に行っている。	職員は法人内での接遇マナー研修に参加し、入居者の人格を尊重した言葉掛けや対応となるよう心掛けている。外部評価調査時、各種支援場面での入居者のプライバシー尊重が適切であることが確認できた。ホームでは不要となった紙媒体の記録類はシュレッダーにて処理されており、入居者個々の記録類についても他者の目に触れない場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしますか？」と問いかけ。本人の意向を確認し希望に沿うよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は食べられるだけの量を勧め、休みたい時は居室や居間のソファなど休みたい場所へ案内するなど本人のペースに合わせて過せるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りやヘアカラー、パーマ、外出時の化粧、外出着の選択支援など行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事したり、献立書きなど行われている。自宅から梅干し等の差し入れもある。	ホームでは法人内特別養護老人ホームの管理栄養士が1ヶ月単位の献立表を作成しており、栄養バランスの取れた食事となっている。入居者毎の嗜好やアレルギーなどの情報は法人全体による給食委員会で意見交換している。食事中は入居者・職員間での会話を大切にしており、入居者の好物はホームのおやつ係が手づくりし、おやつ時間に提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算、献立作成。その方に応じた食事の形態や食が進まない方には補食を差し上げる、水分補給には甘いものを勧めるなど個々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き実施。不十分な方の歯磨き介助、状態に応じた洗口液や口腔ウェットティッシュを使用し義歯はポリドント消毒している。外出困難な方は、歯科衛生士訪問による口腔ケアを受けられている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し排泄の声かけを行っている。e-ballを使用し膀胱括約筋強化訓練を行い尿漏れ防止に努めている。	職員は入居者毎の排泄パターンを排泄チェック表に基づき把握しており、適切な声掛け誘導を行うことでトイレで排泄できるよう支援している。また、オムツや尿取りパット類に関しても個人のレベルに沿った適切な使用に向け、職員全員で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷水や牛乳を勧めたり、状態に合わせて牛乳からヤクルトやヨーグルトへ変更している。腹部マッサージや運動を行い、それでも効果なければ、薬剤調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に合わせた温度調整を行い、会話しながら楽しんで入浴できるよう支援している。入浴日に入浴できなかった時は、れもんユニットで入浴できるよう対応している。	ホームでは週3回ユニット毎での入浴を基本としているが、入居者の入浴拒否や受診の都合、体調の変化など該当日に入浴できない場合はユニットをまたいで対応するなど、臨機応変に対応している。職員は入居者の希望する温度の調整や入浴の順番にも配慮し、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明の調整を行い、家で使い慣れた寝具を使用し安眠へ繋げている。居室のベッドで休めない方や昼間の休息にはリクライニング車椅子や居間のソファなど安心して休める場所を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服フローチャートに沿って与薬している。服薬状態を確認し、個々に応じた与薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や編み物などの楽しみ事や献立書き等の役割をその人に応じて行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	兄弟の通夜への外出準備や買い物への同伴を行っている。また、馴染みの美容室に家族の協力を得て出かけられている。	ホーム周辺の敷地は隣接するサービス付き高齢者向け住宅と共有し入居者が自由に散歩できるスペースがあり、天気の良い日には職員とともに散歩することで入居者の気分転換を図っている。また、家族の協力を受けながら地区の棚田祭り(寒山子祭り)や文化祭、入居者馴染みの美容室へ出向くなど、個別での外出を随時楽しむことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の能力によりお金を自己管理したり、買い物時は自ら支払われるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から荷物が届いた時のお礼や入居者が希望される時の電話、入院中の連れ合いへの手紙を書くことができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所の標示、室温調整を行っている。また、快適に過せるよう臭いにも配慮している。	ホーム玄関には管理者が大切に育てた蘭の花が飾られ華やかさが感じられるほか、居室からリビングへの通路は車椅子使用でも障害にならないよう工夫された家具類の配置となっている。各所にある手すりや取っ手類は溶解液を使用し消毒しており、感染症対策委員のチェックにて清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになれる居室やゆっくり過ごせるよう居間にソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や冷蔵庫、テレビ、使い慣れたタンスや寝具、椅子などを整え、観葉植物を置き居心地よく過ごせるよう工夫している。	各居室には入居者馴染みの物が持ち込まれ、職員による清掃や室温・湿度管理により、快適に過ごせる空間となっている。入居者の事情で備品類の移動が必要となった場合は家族・職員で話し合い、入居者にとって最適な場所への配置を検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで場所の標示を行い、その方に応じた補助具の提供することで、安全に自立した生活が送られるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 れもん

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲げている。朝の申し送り時に職員全員で読み上げ、その日の介護に実践できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加したり、近隣の方に消防訓練に参加して頂いている。また、年に1回の粽作りには近隣の方にも参加して頂いたり、日頃、お世話になっている方に配るなど交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会主催による介護福祉フェスタや介護の仕事基礎講座に協力事業所として参加したり、中学生の体験学習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進委員会を実施。消防訓練やレクレーション、外食会などの行事に参加して頂き、当事業所の活動の理解や意見交換を行いサービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の届け、事故報告書、はさみ里便りを提出したり、運営推進会議に参加して頂き、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の愛隣会による身体拘束委員会に参加して、委員による言葉や環境面の抜き打ちチェックを行い自己、他者評価を行っている。年に2回勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞やニュースでの出来事について話し合ったり、虐待の研修に参加し防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の家族に成年後見人の方がいらしており、新聞や研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書に沿って説明し不安や疑問点を尋ね理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の説明、意見箱の設置、面会時やケア会議時に直接意見を聞き、運営の反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	愛隣会においての各委員会への参加や職員会議、上司による個人面接にて意見や提案を述べたり、聞く機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課導入や給与、賞与に関して説明を十分に受けている。また、時間外勤務がないように努め、やむを得ない時は手当で金を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験・力量に応じた個人目標を立て実践できるように配慮している。また、個人目標に沿って研修参加や資格取得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東彼3町セミナーやケアネットはさみ等学習会・交流会に参加、また、グループホーム協議会にて、「看取り期のケア」について発表したり、同業者との意見交換等、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問し、馴染みの関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時に家族が困っていること、不安なこと、要望がないかを聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人・家族・ケアマネジャーより情報収集し必要な支援を確認しながら、支援方法を決定している。何が必要か、支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、裁縫など一緒に行ったり、その人々が何が出来るかを話し合いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、家族と過ごす環境を整備し、行事に参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	秋にはドライブを兼ねて、故郷巡りを行い近隣の方との懐かしい会話を交わしたり、近くの友人宅での食事会に参加したり、関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士を見極め、お喋りを楽しめるように環境を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族が面会にみえたり、夏祭りにお誘いして参加される。入院中の方々のお見舞いに行ったり、100歳のお祝いに色紙を贈ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きなテレビ(水戸黄門)の時間には居室に誘導し視聴できるような配慮や横になりたい時は、ベッドに誘導する等、本人の意向に沿った支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーや家族より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	受持ち制で一人一人の1日の流れを把握し記録をして、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月の情報収集を行い、ケアプランに反映している。家族と職員にてケア会議を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って介護を行い記録している。、変更時は申し送りを行い、情報を共有しケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所時には使い慣れたソファや布団、テーブルを持ってきてもらっている。家族のニーズに応じて、病院ではなく、施設で点滴治療を実施することもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無料歯科検診や出張理容を受けたり、隣接する施設の方に、絵手紙を習いに行かれる。また、地域の方の皿回しのレクリエーションを受け楽しめる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の他、必要時には歯科、眼科、整形外科受診、川棚・嬉野医療センター受診を行う等、個々に応じた受診支援を行っている。家族と連絡を密に行い、本人や家族が求める医療支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常の発見発見に努め、すぐに看護師に報告している。看護師は24時間対応できる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にサマリーを提供し、入院中も面会に行き、早期に退院できるように、主治医や家族と連絡を行っている。退院後もスムーズに定期受診ができるように外来看護師とも連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、家族と話し合いを重ねたり、必要時には病院受診に付き添ってもらい、主治医より病状説明して頂くなど共有と支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時にAEDの使用の訓練をしたり、吸引の勉強や練習をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	あちこちで災害が起きていることから、地域の災害訓練に参加し、地域との協力体制を築いたり、愛隣会全体の消防訓練を行った。毎日の自主検査、年4回の定期自主検査を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ話を繰り返される方には、否定せず話を聞くようにしている。また、排泄時の誘導の声かけや入浴時はプライバシーには配慮した対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るように、「どうしますか？」と問いかけている。意思表示できない方には、「はい」、「いいえ」で選択できるような問いかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で一人で過ごしたい時、午睡したい時は居室に誘導したり、食事も食べたい時に好きな物を食べて頂き無理に勧めていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の化粧水やクリーム、外出や行事時の化粧・マニキュアやお気に入りのブローチを付ける等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じテーブルで一緒に食事をとり、楽しんで食事できるように心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算、献立作成、個々に応じた食事形態や補食を考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを支援し、不十分な方は歯磨き介助を行っている。歯間ブラシやウェットティッシュを使用して個々に応じた口腔ケアを工夫している。定期的に義歯のポリドント消毒を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンを把握し排泄の声かけを行っている。また、e-ballを使用し膀胱括約筋強化を行い、尿漏れ防止に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	早朝の冷水や牛乳、ヨーグルト、芋等を提供したり、腹部マッサージを行い、便秘予防に努めている。効果なければ、薬剤調整や困難な時は看護師による摘便を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴後は笑い声が外まで聞こえるほど楽しい話しや歌を歌い気持ち良く入浴して頂くよう支援している。入浴日に入浴できなかった時は、りんごユニットで入浴して頂くなど臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを見ながら入眠する方、冬場は湯たんぽで保温する方など、個々の希望に沿った安眠への支援を行っている。睡眠薬を服用している方はいない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服フローチャートに沿って与薬している。個々の心身の状態に応じた服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみは職員と一緒にしたり、食後の献立書きや新聞紙でのゴミ箱作り、カレンダー作りなど、個々に応じて役割として行われている。動物番組や水戸黄門は好んで視聴される。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	故郷巡りや庭木ダムの桜見や外食会等の外出、家族とのドライブ、外食会等一人一人の希望に沿っている。また、外庭での外気浴や散歩等を日常的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食会時の買い物には付添い、自ら支払われるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙を書き、娘さんに送ったり、母の日や敬老の日にプレゼントが届くと、お礼の電話を掛けられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるカレンダー作り、居間に飾っている。冬場は乾燥対策に加湿器を使用し、夏場はエアコン調節だけではなく、窓を開け外気を入れるなど風を通してしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で自室でゆっくりとテレビを見たり、フロアの籐椅子に座ったり、のんびりと過ごせるよう配慮している。気の合う同士の席の配置を工夫して、過ごしやすい空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を貼ったり、使い慣れたテーブルや椅子、テレビの使用など自室でゆっくりと過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや場所の標示を利用して安全な環境作りに努めている。		